

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	「在宅医療のベストプラクティス」を探る
演者名	齋藤学 岩野歩 平部俊哉
所属	コールメディカルクリニック福岡

【背景】

在宅医療は、病院医療とは異なり、密室の医療になる可能性がある。疼痛緩和等の症状緩和においては、ガイドラインや緩和ケアセミナーなどの充実により、診療における差異は少ないものと思われる。しかしながら、日々のちょっとした診療、例えば皮膚疾患や耳鼻科疾患、眼科疾患などは、いわゆる「歳のせい」とか「目薬や軟膏」でお茶を濁すことも少なくない。

【目的】

ポケットエコーの使い方など、知れば知るほど奥が深い。日頃、演者が使用する器材や実践内容を発表し、「在宅医療のベストプラクティス」に少しでも近づけるような使用方法や所見の解釈の仕方など、より深い共通認識が持てることを目的とする。

【実践内容】

下記、日常診療の中での実践内容を報告する。

眼科疾患：日常生活で新聞等が読めなくなった際のアセスメント、眼底鏡や携帯型スリットランプの使用経験について。

耳鼻科疾患：耳垢塞栓や鼻出血の対応から、難聴や味覚障害の介入について。

皮膚科疾患：はじめてみる皮疹の対応、KOH 染色。

形成外科疾患：重度褥瘡や陥入爪などのマイナーサージェリーについて。

整形外科疾患：トリガーポイントブロックや関節穿刺、安定型骨折の対応やリハビリなど。

【考察】

実際に研修医をこれから教育していく上で、ある程度のベストプラクティスは身に付けておきたいところである。また、眼科や皮膚科等の専門診療に学ぶことで、どの程度まで日常診療に還元できるか考察したい。本発表は、在宅医療における当院での試行錯誤の診療を公表することで、学会場の先生方と「在宅医療のベストプラクティス」について一緒に考える機会を得られれば幸いである。